



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	トメアスー移住地におけるデカセギと地域社会
Author(s)	新藤, 慶
Description	第2部 アマゾン農村におけるデカセギの過去と現在 : トメアスーを事例として
Citation	『調査と社会理論』・研究報告書, 26, 69-80
Issue Date	2008-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/32557
Type	departmental bulletin paper
File Information	II_P69-80.pdf



トメアスー移住地におけるデカセギと地域社会

新藤 慶

はじめに

本稿では、デカセギがトメアスー移住地の人々やトメアスー移住地という地域社会そのものにいかなる影響を与えたのかを明らかにすることを目的とする。そこで、トメアスー移住地に暮らす人々の生産・生活の状況、デカセギによる変化、トメアスー移住地についての考え方などを順に明らかにしていきたい。

第1章 トメアスー移住地での生産と生活

まず、トメアスー移住地に暮らす人々の生活状況を概観する。この点をまとめた表1を見ると、調査対象者は男性20人、女性21人とほぼ半々になっている。年齢は、20歳代3人（7.5%）、30歳代7人（17.5%）、40歳代10人（25.0%）、50歳代4人（10.0%）、60歳代12人（30.0%）、70歳代4人（10.0%）となっており、平均年齢は、50.8歳である。日系何世かについては、1世が18人（43.9%）、2世が16人（39.0%）、3世が6人（14.6%）、非日系が1人（2.4%）となっており、1世の多さが目立つ。学歴を見ると、小学校3人（7.0%）、中学校13人（30.2%）、高校18人（41.9%）、専門学校2人（4.7%）、大学6人（14.0%）、大学院1人（2.3%）であり、中学・高校で7割以上を占める。配偶者の状況では、未婚6人（12.8%）、既婚32人（68.1%）、離死別9人（19.1%）と、2/3以上が有配偶の状況にある。

トメアスー移住地での居住年数は、例外的に1年という者がいるが、それ以外は20年以上となっている。具体的には、20～30年未満が3人（5.4%）、30～40年未満が10人（18.0%）、40～50年未満が17人（30.6%）、50年以上10人（18.0%）で、最長は61年となっている。平均は41.4年である。40～50年未満が特に多く、1960年前後に入植した者が中心となっている。

トメアスー移住地に入植した者のほとんどは、農業を営んだ。そこで、現在の農業の状況を見てみると、農業を営んでいることが確認できたのは34人（53.7%）である¹⁾。大半が大規模農業であり、農地面積を見ると、50ha以上の農地を持つ者が24人（70.6%）に達している。このうち、平均すると約50%を耕作に充てている。現在栽培している作物は、ピメンタと、クプアスやアサイーなどのフルーツが中心となっている。この点は、CAMTAのジュース工場の設立とも呼応するものと捉えられる（本報告書第2部小野寺・新藤論文参照）。ただし、ピメンタを主要作物として挙げていない農家も17人（50.0%）に達しており、ピメンタ中心の農業が転換しつつある状況が看取される。実際、この10年間で作付面積がもっとも減少した作物としてピメンタを挙げる者は13人（38.2%）にのぼる。その代わりにカカオなどの品目が増えている。

しかし、ピメンタからの転作は、農業収入の増加には結びついていない。最近10年間で農業収入が増加したと答えたのはわずか4人（11.8%）にとどまっており、一定が10人（29.4%）となっている。逆に減少したと答える農家が最も多く、17人（50.0%）に達している。農業収入減少の理由としては、「ピメンタ病害による収量低下」（5人）、「ピメンタの価格低迷」（3人）など、栽培や販売面でのピメンタの扱い方の難しさと、その穴を埋めることができていない状況が見て取れる。一方、なかには「日本から帰ってきて、稼いだお金を農業につぎこんだ」（No.27）ために農業収入が増加したとする者も少なからず存在する。ピメンタ単作からの転換をいかなる形で乗り切るかに、

表1 トメアスー移住地在住日系人の基本属性

No.	年齢性別 日系何世	学歴	結婚	居住 年数	農地面積 (ha)	現在栽培している作物 (作付の多い方から3つ)			増加した 作物	減少した 作物	農業 収入
1	42歳女性 (非日系)	高校	既婚	DK	DK	DK	DK	DK	DK	DK	DK
2	30歳男性 (二世)	高校	既婚	30	100	パオオイル	—	—	一定	一定	一定
3	66歳男性 (一世)	大学	既婚	40	50	アセロラ	ピメンタ	カカオ	カカオ	アセロラ	増加
4	54歳女性 (一世)	中学	既婚	DK	DK	DK	DK	DK	DK	DK	DK
5	35歳男性 (二世)	高校	未婚	DK	DK	DK	DK	DK	DK	DK	DK
6	33歳男性 (二世)	中学	既婚	DK	DK	DK	DK	DK	DK	DK	DK
7	64歳女性 (一世)	小学	既婚	53	8	ピメンタ	その他 (DK)	クブアス	NA	NA	増加
8	53歳女性 (一世)	中学	離死別	DK	DK	DK	DK	DK	DK	DK	DK
9	51歳男性 (二世)	大学	離死別	51	200	ピメンタ	クブアス	カカオ	カカオ	ピメンタ	減少
10	DK	DK	DK	DK	DK	DK	DK	DK	DK	DK	DK
11	年齢不詳女性 (一世)	中学	既婚	NA	75	カカオ	アサイー	クブアス	カカオ	ピメンタ	一定
12	29歳女性 (二世)	高校	未婚	29	—	—	—	—	—	—	—
13	64歳女性 (二世)	高校	既婚	36	170	ピメンタ	カカオ	ゴム (3つとも同列)	ゴム	カカオ	減少
14	33歳女性 (非日系)	高校	NA	33	—	—	—	—	—	—	—
15	35歳男性 (三世)	高校	既婚	35	2	アセロラ	クブアス	カカオ	アセロラ	ピメンタ	一定
16	43歳男性 (三世)	高校	既婚	43	25	ピメンタ	アセロラ	クブアス	ピメンタ、 アセロラ	クブアス、 ゴム	減少
17	64歳女性 (一世)	中学	既婚	DK	DK	DK	DK	DK	DK	DK	DK
18	43歳男性 (二世)	大学	既婚	43	NA	デンレーヤン (アロマオイル)	カカオ	クブアス	デンレーヤン (アロマオイル)	ピメンタ	減少
19	66歳女性 (一世)	NA	既婚	43	NA	デンデ	クブアス	カカオ	NA	ピメンタ	減少
20	41歳男性 (二世)	DK	DK	41	NA	ピメンタ	カカオ	クブアス	ピメンタ	マラクジャ	増加
21	61歳女性 (二世)	中学	既婚	61	50	ゴム	クブアス	カカオ	クブアス	ピメンタ	一定
22	62歳女性 (一世)	NA	既婚	34	250	アサイー	カカオ	材木	アサイー	NA	一定
23	41歳男性 (二世)	高校	既婚	41	400	デンデ	ピメンタ	カカオ	デンデ	ピメンタ	減少
24	77歳男性 (一世)	中学 (高小)	既婚	44	490	デンデ	カカオ	クブアス	NA	NA	NA
25	63歳女性 (一世)	中学	離死別	DK	DK	DK	DK	DK	DK	DK	DK
26	40歳女性 (二世)	高校	未婚	40	52	カカオ	DK	DK	カカオ	NA	減少
27	47歳男性 (一世)	中学	既婚	47	303	ピメンタ	カカオ	アサイー	アサイー	マラクジャ	増加
28	69歳女性 (一世)	高校	既婚	53	100	ピメンタ	カカオ	アセロラ	アセロラ	野菜	減少

29	65歳女性 (一世)	専門 学校	既婚	37	75	ピメンタ	カカオ	果物 (3つとも同列)	NA	NA	NA
30	72歳男性 (一世)	NA	既婚	53	200	ピメンタ	カカオ	クブアス	NA	NA	一定
31	64歳女性 (一世)	小学	既婚	54	200	ピメンタ	カカオ	クブアス	NA	NA	一定
32	70歳女性 (一世)	高校	離死別	41	175	カカオ	ピメンタ	マラクジャ	マラクジャ	ピメンタ	減少
33	39歳女性 (三世)	高校	既婚	1	NA	ピメンタ	カカオ	クブアス	ピメンタ	その他 (DK)	減少
34	67歳男性 (一世)	DK	DK	47	200	パーム	カカオ	アセロラ	パーム	ピメンタ	減少
35	70歳男性 (一世)	NA	既婚	45	DK	パーム	ゴム	クブアス	パーム	ピメンタ	減少
36	54歳男性 (一世)	高校	未婚	46	1100	カカオ	パームヤシ	クブアス	パームヤシ	牧場	減少
37	47歳男性 (三世)	大学	既婚	47	297.5	マラクジャ	カカオ	ピメンタ	マラクジャ	ピメンタ	減少
38	43歳女性 (二世)	大学	未婚	43	—	—	—	—	—	—	—
39	DK	DK	DK	DK	DK	DK	DK	DK	DK	DK	DK
40	75歳女性 (一世)	高校	離死別	52	100～120	ピメンタ	アセロラ	カカオ	ピメンタ	NA	減少
41	54歳女性 (一世)	中学	既婚	DK	DK	DK	DK	DK	DK	DK	DK
42	32歳男性 (二世)	大学院	未婚	32	—	—	—	—	—	—	—
43	27歳女性 (二世)	高校	既婚	27	—	—	—	—	—	—	—
44	27歳女性 (二世)	中学	離死別	27	—	—	—	—	—	—	—
45	41歳男性 (二世)	専門 学校	既婚	41	NA	ピメンタ	カカオ	マラクジャ	NA	マラクジャ	減少
46	43歳男性 (二世)	大学	離死別	43	100	植林	—	—	NA	NA	NA
47	62歳女性 (一世)	小学	離死別	52	19	ピメンタ	カカオ	クブアス	ピメンタ	カカオ	一定
48	32歳男性 (一世)	中学	既婚	32	7	カカオ	野菜	その他 (DK)	野菜	カカオ	減少
49	65歳女性 (一世)	高校	既婚	DK	DK	DK	DK	DK	DK	DK	DK
50	35歳女性 (二世)	高校	離死別	35	—	—	—	—	—	—	—
51	57歳男性 (三世)	中学	既婚	57	75	カカオ	アサイー	クブアス	アサイー	ピメンタ	一定
52	59歳女性 (一世)	NA	既婚	51	75	カカオ	アサイー	クブアス	アサイー	ピメンタ	一定
53	64歳性別不詳 (一世)	DK	DK	38	70	ピメンタ	パッション	アセロラ	NA	NA	NA
54	DK	DK	DK	DK	DK	DK	DK	DK	DK	DK	DK

注)「—」は、非農家であることを指す。

表2 トメアスー移住地の農業のために必要なこと

道が悪いので改善する。工場などを増やす。(2)

ジュース産業 (3)

後継者不足 (7)

トメアスーは農業だけではやっていけない。材木関係などの仕事など、他の工場が必要。(9)

農業後継者育成の推進。郡でやるようにがんばっている。(16)

ピメンタはこれからもやっていくだろう。100パーセントジュースには切り替えられない。ジュースは日銭。ピメンタはバクチ的だけれど大きいお金が入る。胡椒と他のものとのバランス。ピメンタは保存が利くし農協で保存していく。古い物から売れる。5～6万本の大規模だと低い価格の時も皆持ちこたえられる。(18)

かんすいが必要 (19)

ピメンタ栽培関連の新事業、農業融資の充実、農業後継者育成の推進 (20)

ジュース産業の推進 (21)

ジュース産業の推進、農業後継者育成の推進 (22)

国の農業施策が重要。低利の融資が欲しい (24)

農業融資の充実、農業後継者育成の推進 (27)

「農地造成」「ピメンタ栽培関連の新事業」「ジュース産業の推進」「牧場経営への転換」「農業融資の充実」「農業後継者育成の推進」(28)

「ピメンタ栽培関連の新事業」「ジュース産業の推進」「農業後継者育成の推進」(30)

気候が変わってきたので、それへの対処。ここ数年、乾燥期。雨が少ない。値段が安い。労働問題 (労働者の雇用条件の問題)。(32)

農地造成、ピメンタ栽培関連の新事業、ジュース産業の推進、農業後継者育成の推進 (35)
 温暖化のせいで熱帯雨林の農業が難しくなっている。乾期が長い。灌漑設備が重要になっている。(37)
 農地造成、ピメンタ栽培関連の新事業、ジュース産業の推進、農業融資の充実 (47)
 そういうことはあまり考えたことはない。「ジュース産業の推進」には、力を入れたらよい。「農業後継者の推進」。ほとんど帰ってこない。何をしたら戻ってくるか…。(息子たちのうち) 一人くらいは帰ってくるのではないかと考えているが。他の家も後継者は少ない。(51)

注) () 内は調査対象者の番号。

個々の農家の生き残り策が見出される。

ただし、個々の農家だけでは限界もある。そこで、トメアスー移住地の農業にとって必要だと考えられることを表2にまとめた。これを見ると、ピメンタを中心とした作物の栽培に必要な灌漑設備の整備、農業融資の充実、そしてジュース産業の推進などが目立つ。一方、トメアスー総合農業協同組合(CAMTA)への期待は、必ずしも高くはない。「ジュース産業。より品質の良いものを生産して、販売を拡張。安心して農業ができるように」(No.21)や、「自然農法という点を強調して、ジュースを売り出して欲しい」(No.22)との声も少なからず存在する。しかし、「組合員ではない」や「自分のことで精一杯」などという回答も多く見られた。なかには、「組合全体で(やると)赤字が出る。……農業者の立場からいえば、生産物だけを扱うべき。それ以外の売掛、買掛が生じると、どうしても面倒になる。販売面は組合員が持って、個人の才覚でやればいい」(No.30)など、

表3 トメアスー文化協会の活動への参加状況(複数回答)

	総会	理事会	地区会	文化活動・行事	スポーツ活動	教育活動(日語学校など)	防犯活動	福祉活動	その他	合計
人 数	13	4	12	18	16	7	11	11	8	N=29
構成比	44.8	13.8	41.4	62.1	55.2	24.1	37.9	37.9	27.6	344.8

表4 トメアスー文化協会に望むこと

もっと日本の文化について広げて欲しい (2)
 ほとんど関わりがない。会員でもない。(15)
 ない。婦人部の活動を長い間していた。結婚式をするときに頼まれて300人分くらいの食事を作ったりした。(19)
 現在、勉強会をしている。不景気なので不動産を買って(貸家)を貸したりしたらどうかなど考えている。会員のお金だけではやっていけない状態。(20)
 役割分担を明確に。赤字決算が続いているので、堆肥づくりや苗づくりは組合に任せただ方がよい。(21)
 学校経営が大変なようだ。最小限の活動にした方がよいのでは。(22)
 必要な活動はほとんど行われている (23)
 よくやっている。(24)
 そこまでは考えていない (27)
 今のところ、満足していると思う。旅行や、スポーツ (28)
 (自分は) 婦人会活動が主だから、女性のスポーツを入れてほしい。バレーボール、ソフトボールは、昔はあった。地区対抗。デカセギで人が減ったので、盛んでなくなった。TVなどなかったので、運動会が唯一の楽しみ。今は、日語学校、文協で運動会をやっている。(32)
 主人なら話せるけど、私は話せない。(33)
 日本文化の継承と教育、防犯 (34)
 日本風の言葉を定着させる (35)
 営業している文化協会が中央とトメアスーの二つしかない。職員もいるので、それを養えるだけの収入を確保することが目標。会費では1割。今までは農業振興だけだったが、重機部門を廃止して店舗経営などに移行。(36)
 特にない。今やっている中で、教育と文化活動をもう少し手厚く。(37)
 文化活動をもっと行ってもらいたい。(42)
 人が少なくなつて、さびしくなったことはある。(51)
 一世(60~70歳)の人の老人ケアの体制ない。(53)

注) () 内は調査対象者の番号。

CAMTAが抱え込みすぎるのではなく、個々の農家の自主性を求める志向性も存在している。

一方、生活面での基盤を提供しているトメアスー文化協会(ACTA)との関わりはどうであろうか。文化協会の活動への参加状況を、表3にまとめた。これを見ると、「文化活動・行事」が62.1

％、「スポーツ活動」が55.2％、「総会」が44.8％など、半数前後の参加者を集めている活動がいくつか見られる。また、一人当たり3～4の活動に参加している計算となる。加えて参加の頻度を尋ねると、「1週間に1回」が最も多く35.7％、次いで「1ヶ月に1回」が14.3％となっている。頻度の高い方から順に並べた「ほとんど毎日」「1週間に2～3回」「1週間に1回」「2週間に1回」をあわせると53.6％となり、過半数が2週間に1回以上は文化協会を利用していることがわかる。これらのことから、トメアスー移住地の日系人にとって、文化協会は一定の地位を占めるものとなっていることがうかがえる。

ただし、文化協会に対する個々の関わりや思いは多様である。文化協会に望むことをまとめた表4を見ると、「必要な活動はほとんど行われている」(No.23)、「今のところ、満足していると思う」(No.28)などと現状の文化協会を評価する声がある。一方、「ほとんど関わりがない。会員でもない」(No.15)との回答もあり、日系人の文化協会離れも一定程度見受けられる。ただし、文化活動、スポーツ活動、農業振興から福祉まで、文化協会に期待を寄せる人々が多数派である。これらの活動に取り組んでいくことができれば、文化協会の重要性は一層高まることになると思われる。

以上のように、生活面では文化協会を基盤として日系人同士の支え合いを志向する傾向が見られる。他方、生産面でも、CAMTAによる農業環境の向上が期待されている半面、個人で自由に農業を行おうという考え方も見られる。その際、農業資金を獲得する手段として大きな意味を持つのがデカセギである。

第2章 トメアスー移住地におけるデカセギの概況

トメアスー移住地におけるデカセギは、どのような状況になっているのだろうか。調査対象者それぞれの家族のデカセギ経験を表5にまとめた。これを見ると、3点が指摘できる。第1に、デカセギが始まったのは1980年代後半ころからであり、このときは妻や夫など親世代が中心であった。第2に、1990年代から子世代のデカセギが始まり、その多くは現在もデカセギに出ている。また、第3に1回あたりの期間は多様であり、1年程度のデカセギを繰り返していることがうかがわれるケース（たとえば、No.3、30の妻など）がいる一方で、10年以上デカセギが続いているケースもあった。

このようにして行われたデカセギであるが、実際には、トメアスー移住地に何をもたらしたのだろうか。そこで、以下、2章にわたって、デカセギ経験者本人と、留守家族のそれぞれの視点から見たデカセギの影響について検討していくことにしたい。

表5 調査対象者家族のデカセギ経験（回数と期間）

No.	家族のデカセギ経験
1	DK
2	妻：1回、2000～2005年 夫：3回、1999～2005年
3	妻：3回、1989～1993年 長男：1回、1997～2001年 次男：3回、1993～2005年 三男：3回、期間不明
4	DK
5	DK
6	DK

7	妻：5回、1987～1997年 夫：5回、1987～1997年 長男：1回、1991～1992年
8	DK
9	夫：1回、1991～1993年 弟：1回、1990～1992年 弟：2回、1989年～現在 妹：2回、1990年～現在
10	DK
11	NA
12	兄：3回、1994年～現在 弟：3回、1995年～現在
13	妻：3回、1990～1995年 夫：2回、1990～1993年 長男：2回、2004年～現在
14	妻：1回、1996～2006年 夫：1回、1996～2006年
15	夫：3回、1990～1994年 夫の兄：5回、1990年～現在
16	妻：1回、1990～1999年 夫：2回、1981～1999年
17	DK
18	妻：1回、2006年～現在
19	妻：3回、不明～1993年
20	夫：3回、期間不明 夫の母親：2回、期間不明 妹：2回、期間不明 妹：2回、期間不明
21	妻：5回、1991～1999年 次男：3回、1991年～現在
22	妻：1回、期間不明 夫：1回、期間不明 長男：1回、2006年～現在 次男：1回、2000年～現在 三男：1回、2007年～現在
23	夫：2回、1990～2000年 兄：1回、1994～1995年
24	次男：1回、2001年～現在 長女：1回、2004年～現在
25	DK
26	DK
27	夫：1回、1990～1996年 弟：1回、1988年～現在 妹：1回、1991年～現在 妹の夫：1回、1990年～現在
28	妻：1回、1989～1990年 長男：1回、1996～1998年 次男：1回、1998年～現在 長女：2回、1990～1995年 次女：1回、1989年～現在
29	妻：8回、期間不明 長男：回数不明、不明～現在 次男：回数不明、不明～現在 三男：回数不明、不明～現在
30	妻：8回、1990～1998年
31	妻：8回、1990～1998年
32	妻：3回、1990～1997年 次男：1回、1997年～現在
33	妻：4回、1990～2006年 夫の母親：回数不明、不明～現在
34	妻：1回、期間不明 夫：1回、1994～1995年 長男：2回、1990年～現在 次男：1回、1990～1992年 息子の妻：1回、期間不明
35	妻：1回、1992年～不明 長男：2回、期間不明
36	NA
37	妻：1回、1990～1995年 夫：1回、1989～1995年
38	弟：1回、1989年～現在 弟：4回、1989～2006年
39	DK
40	NA
41	DK
42	夫：1回、1997～1999年
43	妻：2回、2000～2005年 夫：6回、1991～2004年？ 夫の母親：1回、1995～1997年 夫の父親：4回、1987～2006年 その他：1回、1997～1999年 夫の妹：2001年～現在
44	NA
45	夫：1回、1989～1995年
46	妻：4回、不明～1980年 長男：1回、2003～2007年
47	妻：1回、1984～1999年 夫：1回、1988～1988年 長男：1回、1996年～不明 長女：1回、1984年～不明 次女：1回、1988年～不明 三女：1回、1989年～不明
48	夫：4回、期間不明
49	DK
50	妻：1回、1994～1998年 妻の母親：1回、1989～1993年 兄：2回、1989～2007年
51	妻：6回、1989年～不明 夫：1回、1998～2000年 長男：回数不明、不明～現在 次男：回数不明、不明～現在 三男：回数不明、不明～現在 四男：回数不明、不明～現在
52	妻：6回、1989年～不明 夫：1回、1998～2000年 長男：回数不明、不明～現在 次男：回数不明、不明～現在 三男：回数不明、不明～現在 四男：回数不明、不明～現在
53	NA
54	DK

第3章 デカセギ経験者本人から見たデカセギの影響

デカセギがトメアスー移住地にもたらす影響として真っ先に思いつくのは、経済的な影響である。そこで、デカセギ経験者が留守家族に行っていた送金の実態を確認する。この点をまとめた表6を見ると、送金の実態は多様であることがわかる。送金額は収入にある程度規定されるところがあるとはいえ、収入が多ければ送金も多くなるという直線的な関係は見られない。収入の比率でいっても、月収の全額や3/4程度を送金していた者もいれば、まったく送金していない者もいる。ただし、送金していないからといって、デカセギの稼ぎがトメアスー移住地にまったくもたらされていない、というわけではない。帰国の際に、それまで貯めた資金をまとめて持ち帰ることもありうる。このあたりは、各自のデカセギ見通しに規定されることとなる。そこで、デカセギ時の帰国の見通しと成果を確認してみたい。

デカセギ時の帰国見通しを見てみると、「お金が貯まったら帰国する」(44.4%)、「何があっても帰国する」(25.0%)の2項目で7割近くを占めており、基本的には帰国希望を持っていたことがわかる(表7)。ただし、帰国するか否かは「お金が貯まっ」ているか否かに規定されるところがあり、この点での判断がデカセギの期間と関連を持っていると考えられる。その「お金が貯まっ」ているかどうかという点を含めたデカセギの成果の評価を見ると、こちらも多様な状況となっている。ただし、同じ資金でも、「住宅資金は貯まったが、事業資金は不十分」といった評価がうかがえる(たとえば、No.40)ように、それぞれの項目ごとに目標が設定されていたことがうかがえる。トメアスー移住地のデカセギ経験者の一部には、このような綿密な目標設定の下にデカセギが行われていることがうかがえる。それゆえに、デカセギの成果は個人によって評価が大きく異なるため、一口にその影響を論じることは難しい。

表6 デカセギ経験者の最長職の平均月収と送金の状況

No.	最長職の平均月収	送金の状況
2	30万円	3ヶ月ごとに10万円
4	35万円	送金しなかった
5	30万円	1ヶ月ごとに15万円
6	30万円	1ヶ月ごとに15万円
7	15万円	1ヶ月ごとに12万円
8	20万円	1ヶ月ごとに20万円
9	30万円	合計50万円
12	30万円	1ヶ月ごとに16万円
13	45万円	1ヶ月ごとに5.5万円
14	24万円	1ヶ月ごとに3万円
15	32万円	送金しなかった
16	50万円	1ヶ月ごとに2,500ドル
17	50万円	1ヶ月ごと(金額は不明)
19	30万円	不定期に送金(金額は不明)
20	50万円	不定期に送金(金額は不明)
21	40万円	不定期に送金(金額は不明)
23	35万円	不定期に送金(金額は不明)
25	30万円	不定期に送金(金額は不明)

26	18万円	1ヶ月ごとに5万円
27	37万円	不定期に送金（金額は不明）
28	52万円	送金しなかった
29	55万円	NA
31	40万円	送金しなかった
32	40万円	不定期に送金（金額は不明）
33	30万円	1ヶ月ごとに2万円
37	200万円	不定期に送金（金額は不明）
40	45万円	不定期に送金（金額は不明）
41	40万円	1ヶ月ごとに30万円
42	25万円	2ヶ月ごとに15万円
43	15万円	3ヶ月ごとに10万円
44	20万円	1ヶ月ごとに5万円
45	48万円	不定期に送金（金額は不明）
46	31万円	1ヶ月ごとに12万円
47	40万円	1ヶ月ごとに20万円
48	36万円	1ヶ月ごとに18万円
49	30万円	不定期に送金（金額は不明）
50	30万円	不定期に送金（金額は不明）
51	32万円	1ヶ月ごとに10万円

注) 1. 金額は概数。
2. 不明・無回答を除く。

表7 デカセギ時の帰国見通しとデカセギの成果

No.	帰国見通し	デカセギの成果					
		ブラジルでの生活資金を稼いだ	不動産や住宅を買う資金がたまった	事業資金が貯まった	仕事上の技術や技能が身についた	日本語や日本の文化を学んだ	日本人の友人・知人が増えた
2	何があってもとにかく帰国する	あまり	十分	あまり	あまり	まあまあ	あまり
4	「おじばがえり」のために日本に行った	十分	あまり	あまり	まあまあ	まあまあ	あまり
5	お金が貯まったら帰国する	まあまあ	あまり	まあまあ	まあまあ	まあまあ	まあまあ
6	日本に家族を連れてこれたら残りたい	まあまあ	十分	十分	あまり	十分	十分
7	何があってもとにかく帰国する	十分	まあまあ	十分	あまり	まったく	十分
8	日本に家族を連れてこれたら残りたい	まったく	まったく	まったく	まったく	まあまあ	まあまあ
9	何があってもとにかく帰国する	NA	NA	十分	NA	まあまあ	まあまあ
12	よい仕事があったら日本に残りたい	まあまあ	まあまあ	まあまあ	あまり	あまり	あまり
13	お金が貯まったら帰国する	まあまあ	NA	まあまあ	まったく	あまり	まったく
14	お金が貯まった帰国する	まあまあ	まあまあ	まあまあ	まったく	まあまあ	まあまあ
15	お金が貯まったら帰国する	まあまあ	まあまあ	まあまあ	あまり	十分	十分
16	何があってもとにかく帰国する	まあまあ	まあまあ	まあまあ	まあまあ	まあまあ	十分
17	何があってもとにかく帰国する	まあまあ	十分	まあまあ	まあまあ	まあまあ	十分
19	何があってもとにかく帰国する	十分	NA	NA	NA	NA	NA
20	何があってもとにかく帰国する	十分	まあまあ	まあまあ	まあまあ	まあまあ	まあまあ
21	何があってもとにかく帰国する	あまり	まあまあ	NA	まあまあ	あまり	十分
23	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA
25	よい仕事があったら日本に残りたい	十分	十分	十分	あまり	まあまあ	あまり
26	ブラジルの経済状態が改善したら帰国する	まあまあ	十分	あまり	まったく	十分	あまり
27	自分としては日本に残りたかったが、兄にあきらめるよう説得された	NA	十分	十分	あまり	十分	十分
28	何があってもとにかく帰国する	NA	NA	十分	十分	十分	十分
29	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA
31	お金が貯まったら帰国する	あまり	十分	十分	十分	あまり	十分
32	お金が貯まったら帰国する	あまり	十分	まあまあ	まあまあ	あまり	まあまあ
33	お金が貯まったら帰国する	NA	NA	NA	NA	NA	NA

37	経験を積んだら帰国	まったく	十分	あまり	十分	十分	まあまあ
40	お金が貯まったら帰国する	十分	十分	まったく	あまり	NA	十分
41	お金が貯まったら帰国する	あまり	あまり	あまり	まあまあ	十分	まあまあ
42	ブラジルの経済状態が改善したら帰国する	まあまあ	十分	あまり	まあまあ	十分	まあまあ
43	お金が貯まったら帰国する	まあまあ	十分	まあまあ	十分	十分	十分
44	日本に家族を連れてこれたら残りたい	まったく	まったく	まったく	まあまあ	まあまあ	まあまあ
45	お金が貯まったら帰国する	まあまあ	まあまあ	まあまあ	あまり	十分	十分
46	お金が貯まったら帰国する	あまり	まったく	まったく	あまり	十分	まあまあ
47	よい仕事があったら日本に残りたい	十分	十分	まあまあ	あまり	あまり	あまり
48	お金が貯まったら帰国する	まあまあ	まあまあ	十分	NA	まあまあ	あまり
49	お金が貯まったら帰国する	あまり	あまり	十分	あまり	あまり	まったく
50	お金が貯まったら帰国する	まあまあ	まあまあ	まあまあ	まったく	十分	十分
51	お金が貯まったら帰国する	まあまあ	まあまあ	まあまあ	まあまあ	まあまあ	まあまあ

注) デカセギの成果は、それぞれ「十分」＝「十分できた」、「まあまあ」＝「まあまあできた」、「あまり」＝「あまりできなかった」、「まったく」＝「まったくできなかった」を指す。

表8 デカセギ前後の所属階層の変化

		デカセギ後					N
		上	中の上	中の中	中の下	下	
デカセギ前	上	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0
	中の上	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	3
	中の中	0.0	7.7	84.6	7.7	0.0	13
	中の下	0.0	0.0	71.4	28.6	0.0	14
	下	0.0	0.0	25.0	25.0	50.0	4
	合計	0.0	11.8	64.7	17.6	5.9	34

注) 1. 不明・無回答を除く。

2. 単位：人、%。

ただし、所属階層という点で見た場合、デカセギの成果を見出すことができる。表8は、デカセギ前の所属階層とデカセギ後の所属階層をクロス集計したものである。ここからは、デカセギ前の所属階層が「中の上」や「中の中」であった者たちには、ほとんど変化が見られないことがわかる。一方、「中の下」では71.4%が「中の中」に、「下」では50.0%が「中の中」や「中の下」に上昇していることがわかる。少なくとも、デカセギ前の所属階層が低い者たちにとっては、デカセギは階層上昇という成果をもたらしたことがうかがえる。

それでは、個人的な成果にとどまらず、広くトメアスー移住地全体に対する影響として考えた場合、どのようなものが見出せるだろうか。この点をまとめた表9を見ると、影響はないとする回答が少なからず見られる。しかし、デカセギ資金による起業や勤勉意識の伝播など、客観的なものと主観的なものの両面で影響を及ぼしていることもうかがえる。また、「デカセギに行って帰ってこない、トメアスーが発展しない」(No.45)との声も聞かれるように、デカセギは個人的な利益だけではなく、トメアスー移住地そのものにも発展の契機をもたらすものであることも認識されている。

また、将来暮らしたい場所については、96.9%がトメアスーと答えている。ここには、生まれ育った場所としてのトメアスーへの愛着もあるかもしれない。しかし、それだけではなく、ここにはデカセギによって持ち帰った資金、技術、意識などを糧として、トメアスー移住地をさらに発展させたいという決意を読み取ることもできるのではないだろうか。

表9 デカセギ経験者がトメアスー移住地にもたらした影響

ないのではないか。(4)
世代交代(5)
デカセギで稼いだ金で起業した。(6)
別に無し(7)
職もない(8)
なし(9)
渡日前にあまり日系人の活動を教わらなかった。帰国後は、婦人部などで活動を。それは、日本滞在中に日本語を覚えたから。(13)
3人雇用した。(14)
地域発展のためにプロジェクトの発展。運営(16)
女性がいろいろな所へ顔を出すようになった。ゴルフ、ゲートボールなど。(21)
地域発展と起業では貢献あり。(25)
なし(26)
勤勉意欲の伝播(28)
「勤勉意識の伝播」が「ややあてはまる」(31)
自分自身はない。全体としては、2世の人は日本語と仕事上の技術とかを身につけてきた。(32)
自分でははかれない。自分でやれることしかやっていないから。(37)
デカセギに行って帰ってこない、トメアスーが発展しない。(45)
トメアスがよくなっている感じがした。若い青年たちが組合に入っているし、野球もすごく盛ん。(46)
勤勉意欲の伝播(47)
地域発展への貢献。(48)
別になし(49)
新しい農業技術の導入、デカセギ仲間という人材の活用、住民への日本語能力の伝達、若いデカセギ者家族による人口増加(50)
勤勉意識の伝播(51)

注) () 内は調査対象者の番号。

第4章 留守家族から見たデカセギの影響

それでは、デカセギを送り出した留守家族は、デカセギの影響をどのように見ているのだろうか。この点を明らかにするために、まずは送金の状況から確認する。そこで、この点をまとめた表10を見ると、「送金はない」というケースが6人(35.3%)いることがわかる。送金を受けているケースが多数派であるとはいえ、まったく送金を受けていない家族も存在する状況がわかる。送金の

表10 留守家族が受けた送金の状況と使途

No.	送金の状況	送金の使途	送金額の満足度
1	1ヶ月ごとに2,400REAL	生活費、借金返済、事業資金	十分だ
3	NA	NA	NA
9	送金はない	—	—
12	送金はない	—	—
13	1ヶ月ごとに300REAL	生活費	まあまあ十分
18	2ヶ月ごとに1,000ドル	子どもの教育費	十分だ
22	送金はない	—	—
24	送金はない	—	—
26	2ヶ月ごとに2,000REAL	生活費	あまり十分ではない
28	送金はない	—	—
29	不定期に送金(金額は不明)	NA	NA
30	NA	NA	NA
32	1ヶ月ごとに1,000REAL	NA	NA
33	NA	NA	NA
35	定期的に送金(金額は不明)	NA	NA
36	不定期に送金(合計10,000REAL)	ものを買う	足りない
38	送金はない	—	—

47	定期的に送金（金額は不明）	貯金あるいは投資	まあまあ十分
49	NA	NA	NA
51	1ヶ月ごとに700REAL	生活費、電話代、電気代、医療費、保険料	十分だ
52	1ヶ月ごとに700REAL	NA	NA

注) 1. 金額は概数。
2. 不明・無回答を除く。

金額はまちまちだが、総じて額が大きい方が留守家族の満足度も高くなっている。ただし、送金の使途については、生活費が中心であり、事業資金や投資にあてる場合はそれほど多くない。デカセギの資金は、日々の生活費の補填が第一の使途とされていることがわかる。

デカセギの受け止め方については、どうであろうか。留守家族のデカセギの捉え方をまとめた表11を見ると、デカセギは、資金や技術を得る機会として捉えられていることがわかる。一方、日本での生活経験については、資金や技術の獲得に比べれば重視されていない。

一方、周囲からはどの点に関心が集まっていると感じているのだろうか。この点をまとめた表12を見ると、デカセギに対する関心は総じて低い。比較的高いものとしては「日本での生活経験への関心・羨望」があり、日本での生活については関心が示されていることがうかがえる。その他、「デカセギの成果（お金）への関心・羨望」も感じている者が比較的多いが、それでも日本での生活経験に対してよりは消極的である。このように、周囲の人々は、デカセギに対して積極的な関心はあまり示していないことがわかる。

表11 留守家族によるデカセギの捉え方

	かなり感じる	やや感じる	あまり感じない	ほとんど感じない	N
デカセギ（お金）への期待	46.2	23.1	30.8	0.0	13
デカセギ（技術習得）への期待	18.2	63.6	18.2	0.0	11
日本での生活経験への関心	27.3	27.3	36.4	9.1	11

注) 不明・無回答を除く。

表12 留守家族が感じる周囲の人々のデカセギに対する反応

	かなり感じる	やや感じる	あまり感じない	ほとんど感じない	N
デカセギの成果（お金）への関心・羨望	33.3	8.3	16.7	41.7	12
デカセギの成果（技術習得）への関心・羨望	9.1	18.2	9.1	63.6	11
デカセギ情報への関心	18.2	18.2	36.4	27.3	11
日本での生活経験への関心・羨望	10.0	40.0	30.0	20.0	10
日本文化への関心	9.1	18.2	45.5	27.3	11

注) 不明・無回答を除く。

表13 デカセギ経験者がトメアスー移住地にもたらした影響

起業 (1)
地域発展、起業、日本語能力伝達。(3)
女が男（夫）に対して発言権が増した。お金を持って来た。(13)
起業、日本語能力伝達、勤勉意欲伝播 (26)
帰って来ても仕事がないから帰って来ない方がよい。(38)
わからないが、新しい農業技術の導入や地域発展のためのプロジェクトの発案・運営がうまくいけばいい。(49)

注) () 内は調査対象者の番号。

このようなデカセギによって、トメアスー移住地にはどのような影響がもたらされたと捉えられているのだろうか。この点を表13から確認すると、起業を通じた地域発展という影響の存在がうかがわれる。しかし、表10にあるように、デカセギによる資金は、起業や投資にまで向かうケースは

それほど多くない。そのため、デカセギが起業を通じた地域発展に貢献する状況は、それほど多くは見られないことも予想される。その結果、「帰って来ても仕事がないから帰って来ない方が良い」(No.38) という声も聞かれるようになっている。少なくとも留守家族の視点からは、デカセギがもたらす恩恵は留守家族の生活費の補完にとどまることが多く、トメアスー移住地そのものに及ぼすレベルにまではなかなか達していないことがうかがわれる²⁾。

おわりに——デカセギ経験者を生かす仕組みづくりに向けて

最後に、本稿での検討を通じて明らかとなったことを2点ほど指摘したい。

第1に、デカセギ経験者本人にとっては、デカセギは大きな成果をもたらすものであった。デカセギを通じ、資金や技術、そして勤勉意識など、客観的な面から主観的な面まで、デカセギ経験者は多くの糧を手に入れたと認識している。それらを生かして、トメアスー移住地の発展に貢献したいと考えている様子も見取れた。

しかし第2に、留守家族や周囲の人々は、デカセギ経験者がもたらした成果を、十分に受け止めていない。留守家族が受けた送金の大半は生活費の補填にとどまり、農業拡大につながるような投資にまでは結びついていない。また、周囲の人々は、少なくとも表向きはデカセギに強い関心を抱いている様子うかがえない。このような状況にあるため、デカセギ経験者が手に入れた資金、技術、意識などの糧は、トメアスー移住地に暮らす人々に十分に伝達するような状況にはなっていない。

そこで今後は、デカセギ経験者を生かす仕組みづくりが必要となる。本報告書第2部小野寺・新藤論文でも指摘したように、デカセギ経験者が持ち帰った成果を生かす受け皿として、CAMTAがジュース工場を整備したという経緯がある。そのようなハード面の対応は、意義深いものであろう。ただしそれだけでなく、ソフト面の対応として、デカセギ経験者が手に入れた糧とかれらの意欲とをしっかりと受け止めることも重要である。デカセギは、デカセギ経験者本人や家族だけではなく、トメアスー移住地にも生かせる成果を内包している。そこで、CAMTAや文化協会などの場でもデカセギ経験者に活躍の場を与えることで、デカセギで得た成果をトメアスー移住地全体に還流させるような仕組みを構築することが、トメアスー移住地の発展にとって大きな意味を持つのではないだろうか。

注

- 1) 農業以外の者については、ほとんどが不明・無回答であり、どのように生計を立てているのかは捉えきれない。「自営業」(No.50)に従事していると回答する者もいる。
- 2) ただし、表13にある「女が男(夫)に対して発言権が増した。お金を持って来た」(No.13)という指摘は興味深い。トメアスー移住地のデカセギは、女性中心に行われてきた(本報告書第2部小野寺・新藤論文参照)が、このことが女性の地位向上に結びついた側面がうかがえる。この点については、本報告書第2部の小野寺論文で詳しく検討している。

(新藤 慶)